

甲賀市：甲賀流忍者の歴史

甲賀流忍者は不屈の精神と忍耐力を発揮し、個人的な栄光を求めることなく任務に専念しました。地味な存在でありながら、歴史上の有名人とも深い縁があります。

起源にまつわる伝承

甲賀流忍者の起源は不明ですが、日本文化に多大な貢献をした聖徳太子（574-622）に関連する伝説があります。聖徳太子には、スパイとして優れた手腕を発揮し、shinobi」と呼ばれた大伴細人という甲賀出身の使用人がいたと伝えられています。

戦国時代（1467-1568）

甲賀地域は当時としては珍しく、他の多くの地域とは異なり、地元大名の権力が弱かったのが特徴です。代わりに、地域社会は血縁と地縁に基づく『同名中』というグループを形成し、自律的な地域統治を行っていました。

やがて、これらのグループは甲賀全域で協力し合い、『甲賀郡中惣』と呼ばれる自治組織を設立するに至りました。この組織と集団的防衛戦略は、安定を維持し、一人の支配的な人物の台頭を防ぐ上で極めて重要でした。他地域の武将が甲賀流忍者を傭兵として雇い、その情報収集能力を頼りに戦いに勝利しました。

最初の重要な戦い（1487年）

将軍足利義尚（1465-1489）は 1487 年、軍を率いて、近江国（現在の滋賀県）の六角氏に侵攻しました。甲賀流忍者は六角一族を中心に結集し、奇襲戦術で足利軍を撃退しました。そのうちの 21 人が特に大胆な夜襲をかけ、義尚に怪我を負わせました。これらの攻撃により、甲賀は全国的に注目されるようになり、この戦いに参加した忍者一家は崇敬されるようになりました。

有力者との緊密な関係

甲賀忍者は、日本統一への道を切り開いた戦国大名、織田信長（1534-1582）に忠誠を誓いました。信長の家臣であった徳川家康（1543-1616）が、岡崎（現在の愛知県）への帰還を阻まれた際、甲賀を通過する家康に避難所を提供し、徳川家との関係を深めました。その後も甲賀忍者は、家康が将軍になるまでの様々な戦いでたびたび援助を行いました。

江戸時代（1603-1868）

1603 年、徳川家康が天下統一を果たし、江戸幕府が開かれ、平和な時代が到来を告げました。農業技術の進歩により生産性が向上し、交通網の整備が全国的な市場の発展を

促しました。これらの変化に加え、商業の拡大が経済や社会の発展を後押ししました。一部の甲賀忍者が中央や地方の政府で職を得て、護衛や警護、沿岸防衛の見張り役などを務めました。

甲賀流忍者の活躍については、甲賀流リアル忍者館で詳しく知ることができます。